

地学教育フォーラムの活動紹介

地学教育フォーラム世話人 埼玉県立深谷第一高校 宮嶋 敏

1 地学教育フォーラムとは

○設立の経緯

理科授業づくり大会（2005年4月2日、東京・文京学院大学女子高校）の高校地学分科会の参加者有志が立ち上げ人となって、「地学教育フォーラムML」を設立することを決定。

○設立の主旨

日本各地に熱心な地学教育関係者が存在するが、その力や成果を束ねてゆく教員主導の全国的な集まりが存在しない。そこで、全国の地学教育関係者が教材交流をはじめとする情報交換、諸問題について議論を行う場を設立することを目指し、まずはMLにて交流を深めてゆく。

2 活動概要 ー普段はMLでの情報交換が主。定番となった交流会での顔合わせも楽しみ！ー

○メンバー構成（2010年8月9日現在）

所属	人数	割合(%)
小学校	8	3.2
中学校	28	11.1
中高一貫校*	19	7.5
高校	85	33.7
大学	30	11.9
学生・院生	17	6.7
研究所	16	6.3
社会教育施設	11	4.4
その他学校	3	1.2
一般	9	3.6
企業	13	5.2
官庁・教育行政	8	3.2
その他	5	2.0
合計	252	100.0

*私学等での高校との兼務を含む

○メール数

年度	メール数	平均 通/日
2005*1	1083*3	4.4
2006	787	2.2
2007	454	1.2
2008	468	1.3
2009	420	1.2
2010*2	145	1.1
合計・平均	3362	1.8

*1 2005.5/1~2006.3/31 *2 2010.4/1~2010.8/9 *3 設立当初の自己紹介を含む

○HPアドレス

http://www.i-mate.ne.jp/chigaku_forum/index.html

○参加希望は、宮嶋 cortlandite@yahoo.co.jp までメールを！

○交流会の実施

回数	期日	場所	参加数
第1回	2006.12/2	京都府立洛東高校	23
第2回	2007.5/19	幕張メッセ会議室	22
第3回	2008.5/25	幕張メッセ会議室	27
第4回	2008.11/29,30	糸魚川(合宿)	11
第5回	2009.5/16	総合教育センター	20
第6回	2010.5/24	総合教育センター	21
第7回	2010.12	箱根(予定)	

3 フォーラム参加者の活動紹介 ー全国の仲間が連携を取りながら多彩に活動しています！ー

中井 仁さん(大阪府立茨木工科高校)

地球電磁気・地球惑星圏学会 学校教育ワーキング・グループで取り組んできた「太陽地球系科学」(京都大学学術出版会)が、本年5月末に上梓されました。高校地学では、地球学と天文学の狭間でこれまであまり注目されてこなかった分野ですが、これを契機に発展著しいこの分野への関心を深めていただければと希望しています。

西村 昌能さん(京都府立洛東高等学校)

京都地学教育研究会、日本天文学会、天文教育普及研究会、日本地学教育学会、日本科学史学会、NPO法人花山星空ネットワークなどに所属しています。この6月に京都地学教育研究会で2年半の歳月を費やした「写真で見る京都自然紀行」(石田志朗監修、ナカニシヤ出版)が出版されましたが、私はその編集委員長を行いました。私共々、本の方もよろしくお願ひします。

武田 康廣さん(千葉県立東葛飾高等学校)

学校内の教育活動以外にも、気象を中心に出版や講演を続けています。最近サイエンスカフェもやっています。南極観測越冬隊に参加して地球規模の現象や環境を知ることができ、まさに地学のフィールドだと実感し、それを生かした教育や啓蒙活動をしています。

小泉 治彦さん(千葉県立我孫子高等学校)

日本地学教育学会、日本地質学会地学教育委員会等で活動しています。スーパーサイエンスハイスクールでの経験をもとに、課題研究の進め方を「理科課題研究ガイドブック」として冊子にまとめました。また紙工作や折り紙などが好きで、アノマロカリスの折り紙などを作って楽しみながら授業をやっています。

小尾 靖さん(神奈川県立相模原青陵高等学校)

神奈川県立高等学校教科研究会(地学研修委員)、日本地学教育学会(広報委員)、日本地質学会(地学教育委員・代議員)で活動中。地理学を父に、社会教育学を母に育ちました。地域に根ざし最先端の科学を学べるのが、地学の魅力だと思います。地学教育を頑張れば「地域」「生徒」「日本の理科教育」が元気になると信じています。

上村 剛史さん(海城中学高等学校@東京都新宿区)

日本地下水学会に所属しています。本校の地学部で、新宿区落合にあるおとめ山公園の湧水を2年ほど観測し続けており、都市の湧水の現状と将来を調べています。行政や地域の方とも関わり、研究結果の提供したり、公園利用の意識調査をしたりして、地学を中心に分野にとらわれず活動しています。地域への貢献と同時に、生徒にとって地に足のついた、実感のある調査・研究ができればと考えています。また、南極での越冬経験があり、最近ばかり気味ですが、小学校などでの南極に関する講演や普及活動もしています。

阿部 國廣さん(元川崎市立西有馬小学校)

川崎から島根の松江に来て2年が経ちました。JpGU合同大会や各種会合への参加には制約を受けるようになりまし。しかし山陰にはジオパーク登録運動を始め素晴らしい地質遺産を始め貴重な地質、露頭を見ることが出来ます。島根県地学会のメンバーに加えさせていただきます。大森銀山跡、伯太川右岸の玄武岩柱状節理、大根島溶岩洞穴、来待石探石場等々、魅力あるところが目押しでした。現在、出雲科学館でのボランティア員として再出発しました。先日青少年のための科学の祭典島根大会で、「出雲平野はどのようにして誕生したのか」演示実験と解説を行いました。

平賀 章三さん(奈良教育大学)

ささやかではあるが、地学教育の復権、理科教育の充実に関わっていきたく、「学びの共同体」にと、このMLの立上げに参加しました。次世代に語り継ぎたいメッセージ、それを保証する最適な教科内容は何か、それらを日々(?)、自問自答しながら、奈良教育大学で、教員養成の一翼を担っています。

末吉 哲雄さん(独立行政法人 海洋研究開発機構)

雪氷学会・惑星科学会・第四紀学会所属。永久凍土の観測とモデリングをテーマに大学院～ポストドクでの研究をしてきました。現在は古気候のシミュレーションを仕事にしています。以前、非常勤で私立高校の高校地学を教えていたが、現在はあまり活動が出来ていません。毎年、母校の高校の山小屋を訪れて高校生と地球科学の研究について話すのが唯一の機会です。今後機会を見つけてまた活動を広げていきたいと思っています。

吉田 昭彦さん(千葉県立船橋高等学校)

勤務校(理数科あり)は地学(理B)必修で、地学担当が2名います。私は授業の他、SSH担当として課題研究や高大連携講座等に取り組んでいます。特に地学分野の課題研究で何かできないものかと考えております。専攻は地質学岩石学。日本地質学会、東京地学協会ほか所属。

留岡 昇さん(立命館高校、京都造形芸術大学)

私学の高校、大学で非常勤講師をしています。現在は特に何も活動していません。京都の地学教育研究会では「写真で見る京都自然紀行」をみんなで出版しました。高校では地学教員が3名おり、来年度は理系にも地学が開講されます。大学理工学部から、基礎学科としての地学履修を要望されたとか、聞いていますが良いことです。大学では素材のルーツを宇宙、地球史の中で考えるという講座を開いています。

島山 正恒さん(聖光学院中学高等学校)

横浜のカトリック男子校で楽しく地学を教えています。JpGU「教育問題検討委員長」、日本気象学会「教育と普及委員会」、「理数系学会教育問題連絡会」などを仰せつかっております。公立学校の締め付けが厳しいために、私がいろいろと請け負うことになっております。(教員にもっと自由を!) ①皆様、JpGUにご参加いただき、地学教育を盛り上げて下さい。②教員のための定期的な巡検を企画しましょう。③理数系学会教育担当の集まりである「理数系学会教育問題連絡会」というのがあり、理科・数学の学校教育上の諸問題を検討し文科省に要望や意見を提出しております。

宮嶋 敏(埼玉県立深谷第一高校)

埼玉県地学教育委員会、JpGU教育課程小委員会をベースに活動しています。次期指導要領の「地学基礎」がいかに開講されるか、つまり地学以外の教員がどれだけ地学を教えられるかが、地学の命運を握っています。それにつながる布教活動が現在の最大のテーマです。そのため埼玉地学では、この5月、「地球惑星科学実習帳」を発行しました。是非、一度、埼玉県地学教育委員会のHP (<http://www.saitamachigaku.jp/>) をご覧ください。

芝川 明義さん(大阪府立花園高校)

大阪府高等学校地学教育研究会や日本地質学会地学教育委員会を主な活動拠点としています。地学の普及を図るために数年前より大阪府地学研究会幹事で「地学伝言隊」を結成し、各種イベントなどに出席しています。また、地学関連見学会案内書や実習帳の作成を行っています。今回の指導要領改訂では地学履修者を増やすための教育課程づくりに励んでいます。全国的な横の連絡がとれる活動をより一層目指していきたいです。

横瀬 正史さん(千葉県教育庁)

千葉県地学教育研究会、日本地質学会地学教育委員会に所属。千葉県地学教育研究会では魅力ある授業のお手伝いをしようと、理科或いは地学が専門外の小・中学校の教員を対象にした実験教室(年4回)および巡検(年2回)を行っています。地学専門の教員が参加しても楽しめる内容です。

福島 毅さん(千葉県立東葛飾高校)

最近教科「情報」に力を入れておりますが、地震予知に関心があり「行徳地震前兆観測プロジェクト」を細々と続けています。「地学」は、人間圏を含めた宇宙・地球という広大な字空間が相手であり、しかも研究手法も様々。それが面白さであると思っています。いつか地球外知的生命体とコンタクトできることを夢見しています。

中島 健さん(滋賀県立大津清陵高等学校・通信部)

滋賀県高校地学部会、日本地質学会(学校教育委員会委員)、日本地学教育学会(ほほ名前だけ)で活動中。今年度から通信制高校に変わって、暦と無縁の生活をしています。当然山岳部もなく運動不足で体重と腹圍がウナギ登り… 次期指導要領の「科学と人間生活」「地学基礎」をいかに展開するか、ただいま思案中です。とりえずは盆休みの劍岳に集中!

高木 淳子さん(京都府立桂高等学校)

京都地学教育研究会、地学団体研究会等に参加しています。地学教育の普及に関心があり、「ちがくのとち」というHPを通じて、雲や天体、火山等の写真を紹介したり、地学以外の教員でも地学を教えられるように教材(プリント)を公開したりしています。京都地学教育研究会では、7月に「写真で見る京都自然紀行」を出版いたしました。

田口 康博さん(長崎県立佐世保西高校)

日本地質学会会員、日本災害情報学会会員、長崎県地学会会員。昨年度IODP-USIO(統合国際深海掘削計画-米国実施機関)の関連組織が主催する「スクール・オブ・ロック2009」に参加しジョイデスレゾリューション号に乗船したことを機に特に海洋底地球科学の教育に力を入れています。その他、防災教育の推進に関する研究をおこなっています。

横山 光さん(壮瞥町立壮瞥中学校)

北海道壮瞥町は昨年、洞爺湖有珠山ジオパークとして世界ジオパークネットワークに正式加盟した地域です。私はその壮瞥町で、一般市民へのジオパーク普及活動に関わるとともに、勤務校である壮瞥中学校の総合的な学習を推進してきました。壮瞥中学校の総合的な学習では地域の基幹産業となる農業・観光業を中1、2で体験・学習し、中3でその根底にある洞爺湖や有珠山についてフィールドワークを通して学習します。それはまさにジオパークを丸ごと学習することになります。そんな学習を通して世界ジオパークであるふるさとに誇りを持つとともに、火山とともに生きるスキル(防災意識や恩恵を知る)を身につけさせたいと願っています。

青谷 知己さん(東京都立府中高等学校)

日本火山学会、天文教育普及研究会会。三宅島2000年噴火では、噴火から避難生活まで多くの体験をしました。今も三宅島ジオツアーや火山を見せる仕組み作りに取り組んでいます。地学部員20名余りと、天体観測や公開講座・巡検などを楽しみながら、府中での自然史研究や地元五日市でのジオパーク推進?にも力を入れています。

渡辺 美和子さん(渡辺教具製作所)

地球儀・天球儀・ポータブルプラネタリウム・月球儀(3種)・火星儀・星座早見盤などを制作・販売している会社の代表です。会社2階に「ミニ博物館 地球儀と岩石・化石」という展示施設を持っています。地球儀のいろいろと稲森潤先生の寄贈による鉱物などの展示品があり、プラネタリウム施設もあるので6~8月には500名ほどの来館者があります。9月には元地質標本館長でミニ博の名誉館長・豊先生による講演「日本の古墳に見られる朱はどこからきたか?」-硫黄の同位体値から産地を推定する~などを予定しています。

瀬川 豊さん(関東学園大学)

日本地球惑星科学連合教育問題検討委員、科学絵本の読み聞かせ「ほんととほんと」メンバー NPO法人地学オリンピック日本国際委員会事務局長。2012年8月26日から9月2日の国際地学オリンピック日本大会にご協力を!

平松 和彦さん(北海道立旭川東高校)

旭川東高校定時制課程で2~4年生に地学Iを教えています。雪氷学会、第四紀学会などに所属。職場以外では土別市立博物館、旭川市科学館の特別学芸員としてボランティア活動に従事し、地学教育に関わっています。旭川市科学館の-5℃と-3.0℃の低温実験室の設計にたずさわり、現在土曜日と日曜日には低温実験部会のスタッフが中心になって、来館者に低温室に入ってダイヤモンドダストや過冷却水の凍結などの実験を見てもらっています。

数越 達也さん(兵庫県立神戸高校)

地学教育委員会・普及行事委員会に所属。教員対象の教員サマースクール(教員免許更新講習を兼ねる)と子ども対象の地震火山子どもサマースクールの運営に毎年携わっています。表裏一体である自然の恵みと災害を子ども達に伝えられるような理科教育をめざしています。

山賀 進さん(私立麻布中学校高等学校)

地学は、「われわれは何者で、どこから来て、どこへ行くか」という素朴で、しかも根元的な問いに、現代の科学がどこまで答えられるようになったかを、現在進行形の形で生徒に伝えることができる科目であることを念頭に授業を行っています。Webにおいて「われわれは何者か-宇宙・地球・人類-」(<http://www.s-yamaga.jp/nanimono/nanimono-hyoushi.htm>)、「かけがえのない地球」(<http://www.s-yamaga.jp/kankyokanryo-hyoushi.htm>)を公開しています。

植木 岳雪さん(産業総合研究所)

産総研で第四系の地質図を作成していますが、教育のキャリアを生かして、地学教育・理科教育にも貢献したいと考えています。第四紀学会では6月に地学教育、今回は生涯教育のシンポジウムをまとめました。そのほかに、地学教育学会の地層のはぎ取り宅配便計画や複数の高校とのSPPも行っています。